



ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”

Vol.07

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

「一国一城令」により城造りが制限され、城の機能は軍事目的から大名のステータスを示すものへと変化

大阪城 (大坂城)

所在地	大阪府大阪市東区
築城年	1583(天正11)年
築城主	羽柴秀吉
主な改修者	徳川秀忠(再建)
保存状態	秀吉が建てた天守は1615年の大坂の役で焼失、その後徳川秀忠によって再建されたがこれも1665年に落雷で焼失。現在見られるのは1931年にSRC造で復元されたもの。

秀吉が築き、徳川が再建した「日本城郭のシンボル」

もともと大坂には石山本願寺が居を構えており、この地の有用性に着目した織田信長との間で約10年にわたって激戦が繰り広げられた(石山合戦)。信長の死後、ここを接収して巨大城郭・大坂城を築き、自らが信長の後継者であることを宣言したのが羽柴秀吉である。安土城に次いで五重の天守を天下人・秀吉が建てたことでこれが城郭の「規範」となり、以降、大坂城に倣った形の城が全国で建てられた。なお、現在見られる高さ30mの本丸石垣は江戸時代に公儀普請(天下普請)で築かれたもので、当時の築城技術の粋が集められている。特に本丸・桜門にある日本最大の巨石群は有名。



本丸・桜門にある巨石(通称「蛸石」)。推定重量100tを軽く超え、現在の岡山県にある犬島から切り出してきたと言われる。当時「石垣をつくらせたら日本一」と謳われた池田家が普請を担当した。

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

